



会長 布施 孝尚
幹事 加藤 育夫
会報 猪股 育夫
例会場 ホテルサンシャイン佐沼
☎ 22-8180 FAX 22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼
☎ 22-8180 FAX 22-0327



第2974回例会 2025.11.6 No.16

本日の出席率

・本日の出席率 45.8%

ニコニコボックス

・布施孝尚会長 千葉吉男会員の全快おめでとうございます。11月生まれの皆さんおめでとうございます。三浦智会員の卓話よろしくお願いします。
・千葉吉男会員 頸椎症性脊髄症の手術で入院し、ご心配をおかけしました。励ましの言葉や電話をいただき、感謝申し上げます。
・三浦智会員 本日は卓話の担当です。よろしくお願ひいたします。
・千葉正宏会員 席替えをしました。楽しんでいただければ幸いです。
・阿部泰彦会員 三浦智会員の卓話、楽しみに!
・高田次雄会員 タベはスーパームーン。薄雲がかかり餅搗きのうさぎさんが見えなかった。残念でした。11月生まれの会員おめでとうございます。今日のスピーチ、三浦とも会員楽しみです。
・菅原慶一会員 三浦智会員のスピーチに期待します。
・佐藤敬喜会員以下 三浦智会員の卓話に期待して。岩渕正彦会員 熊谷敏明会員 及川昭宏会員
太田陽平会員 杉田広仁会員 阿部靖公会員
佐藤哲弥会員 志賀昭洋会員 村上正弘会員
及川幾雄会員 岡本健一会員 千葉正洋会員
森田陽子会員
以上、ありがとうございました。

会長要件 布施孝尚会長

先週の例会は、休会日でございました。10月28日(火)には、佐沼ロータリークラブ単独としては初めてのゴルフコンペを企画し、15名の会員の皆様にご参加いただきました。天候が心配されましたが、会員の皆様の日頃のご精進のおかげで見事に回復し、

楽しい一日を過ごすことができました。

成績: 優勝 三浦孝次郎会員
準優勝 千葉隼人会員
ベストグロス 斎藤力会員

皆様本当に上手でした。企画・運営にご尽力いただきました、親睦活動委員会の岡本健一委員長、佐藤郁子副委員長をはじめ、多くの皆様に心より感謝申し上げます。

さて、本日は本来であれば8日(土)に第5分区のインターナショナル・ミーティングが予定されておりましたが、加藤雄彦ガバナーのご都合により延期となり、通常例会の開催となりました。急なお願いにもかかわらず卓話をお引き受けくださいました三浦智会員、本当にありがとうございました。どうぞよろしくお願ひいたします。

11月に入り、朝晩の冷え込みが厳しくなってまいりました。皆様には体調管理に十分ご留意いただきたいと思います。

また本日は月初めの例会ということで、11月生まれの会員の皆様のお誕生祝いを行います。本日はなんとお誕生会員全員ご出席ということでございます。おめでとうございます。

日も短くなり、少し寂しさも感じる季節ですが、春の訪れを楽しみにしながら、これから季節を元気に過ごしてまいりましょう。

早いもので会長就任から4ヶ月、すでに3分の1が過ぎました。まだ残り3分の2ございますので、引き続き皆様のお力添えをいただきながら、楽しく充実した1年にしていきたいと思います。

幹事報告 佐藤哲弥会計

・2024-2025ガバナーより
2024-2025年度年次報告書が届く
・若柳RCより、活動計画書が届く

・石巻東RCより、会報が届く
・宮城県環境生活部より
令和7年度「みやぎの3R推進キャンペーン」における啓発活動について(依頼)
3R推進月間 10月1日(水)~10月31日(金)

誕生祝 (11月に誕生日を迎える会員)
佐藤哲弥会員 及川幾雄会員 熊谷敏明会員



11月に誕生日を迎える会員

今週のスピーチ

「六月祭」復活に込めた
地域の奉仕と未来への思い
三浦智会員

本日は、本年7月26日に開催した「六月祭」についてお話をさせていただきます。私は六月祭の実行委員長を努めさせていただきました。

迫町佐沼地区で、約400年の歴史を持つ祭りの名称を復活させた「六月祭」の取り組みについて、特に「地域奉仕」と「次世代への継承」という視点からお話をさせていただきます。ロータリーの掲げる「奉仕の理想」は、私たちが六月祭の復活に込めた思いと深く共鳴すると感じております。

○祭りの歴史と復活の意義

1. 地域の伝統: 津島神社と羽黒神社

祭り会場の一市八日町通りは、津島神社と羽黒神社の二つの神社が向かい合う通りであり、まだ知られていない登米市の観光資源のひとつであります。津島神社が葛西大崎一揆の舞台となった鹿ヶ城に向かって北向きに建てられ時代が下り、城主が高清水から佐沼に入る際に羽黒神社を持ってきて、津島神社に向かって建てられたことが起因であり、二つの神社が向かい合う場所は、全国でも1箇所だけではないかとも言われております。

この向かい合う二つの神社の例大祭が起源であり、旧暦の6月13日(お夜籠り)、14日(津島神社例大祭)、15日(羽黒神社例大祭)に催行されてきました。この3日間を地域住民から「六月祭」という名称で親しまれてきました。

その歴史は約400年にわたり、二つの神社への信仰のみならず、一市八日町通りの商店に加え、旧登米郡全域はもとより、気仙沼や志津川、石巻からも野菜や魚介類を持ち寄り、通りで販売する方も多いといった記録が残っております。

県北地域最大の祭りとして親しまれてきましたが、運営体制の変更などを機に昭和41年(1966)年に「佐沼夏祭り」と改称され、主に商工会を中心とし

た運営体制となったようです。
2. 名称復活に込めた「奉仕の理想」

「佐沼夏祭り」は近年、鹿踊りをはじめ郷土芸能の奉納や、佐沼小学校の生徒が行政区毎にみこしを作成し通りを練り歩く「みこしパレード」、花火の打ち上げなど、夏の風物詩として定着し親しまれてきましたが、本年エスファクトリー東北中江公園に会場を移すことがきっかけとなり、私は一市八日町通りでのお祭りの実行委員会を立ち上げることを決意しました。

祭りを催行するということは莫大なエネルギーが必要であり、お金もマンパワーも商工会さんにとって大きな負担であり、時代の流れとともに会場を移動して開催する決断も致し方ないことだと思います。しかしながら、私は子供の時分から佐沼の夏祭りは一市八日町通りで行われてきたものであり、今でもワクワクしたその思いは鮮明に記憶しております。約400年続いた祭りのルーツは一市八日町通りであり、その伝統を後世に残さないといけないのではないかという使命感に駆られる一方で、商工会さんですから大変だったお祭りをイチから立ち上げることが出来るのだろうかという大きな不安がありました。

商工会役員の諸先輩はじめ、青年部の皆さん、神社通り商工会、観光物産協会、とめ青年会議所の後輩たち、登米市役所、佐沼警察署といろんな方に相談させていただきましたが、相談すればするほど不安は大きくなりました。

まずは、あの場所で続けることを第一目標にし、規模を大幅に縮小して開催することにし、私たちは敢えて往時の祭典名である「六月祭」という名称を復活させた「六月祭」の取り組みについて、特に「地域奉仕」と「次世代への継承」という視点からお話をさせていただきます。ロータリーの掲げる「奉仕の理想」は、私たちが六月祭の復活に込めた思いと深く共鳴すると感じております。

○祭りの歴史と復活の意義
1. 地域の伝統: 津島神社と羽黒神社
津島・羽黒の両神社はもちろん、鹿ヶ城や佐沼の町の成り立ち、一市、八日町という今も残る地名に込められた意味、歴史を紐解くことで市民の皆さんにもっと自分たちの地域のことを知ってもらいたい、そして何より昔からこの地域の中心市街地であることを再認識してもらいたいという願いを祭りのコンセプトに込めました。「時代とともに形が変わったとしても、地域の伝統や文化を後世につなぐために、残していくといけないことがある」という思いが、私たちの活動の原動力です。

○新しい「六月祭」の地域奉仕活動

私たちは、六月祭を単なるイベントとしてではなく、地域と次世代のための「奉仕活動の実践の場」として位置づけました。

1. 地域を巻き込む奉仕活動

祭りの中心は伝統の神輿。津島神社・羽黒神社に加え、八幡神社や青年会議所も加わった4基の神輿と市内全域の小学生を対象とした子供神輿が通りを練り歩き、地域に活気を与えた。また、通りに面した民家をお借りし、過去の六月祭に関する古文書や約100年前の稚児衣装、昭和30年代の8mm映像などを展示し、来場者に伝統文化を紹介しました。



スピーチをする三浦智会員

当日は、大変暑く、神社通り商店会の皆さんや住民の皆さんが率先して道路に水を撒いたり、来場者に積極的に声掛けをするなど、人的協力ではない「精神的な支援」の形で地域が一体となって祭りを盛り上げてくれました。これはまさに地域が自発的に行う「奉仕の輪」の現れだったと思います。

市民ボランティアによる「ゴミゼロプロジェクト」を実施するなど、環境美化への意識向上にも取り組みました。

2. 次世代育成のための活動

特に、未来の担い手である中高生の育成に重点を置きました。

祭りのコンテンツに総合的な学習（探求）の要素を取り込み、子どもたちが課題解決を通じて自己の生き方を考える機会を創出しました。また、市内在住のイラストレーターの野家一行さんに監修してもらい、市内の高校生がワークショップ形式でポスター制作に参加しました。

「遊びは六月祭りんく」や「登米市神輿祭」の子供神輿に多くの小中高生が参加し、伝統文化に触れる会場内で自由に遊ぶ姿が見られた。私たちは、この祭りを「恒久的な祭りの形」とし、次世代の担い手が深く関わることで、過去・現在・未来をつなぐことを願っています。

○まとめとロータリークラブへの期待

1. 成果と今後の課題

皆さんのご協力で、来場者は4,000名に上り、地域のにぎわいに貢献できました。しかし、熱中症対策、ボランティアスタッフの不足、そして事業予算がマルシェ出店料のみで赤字になったなど、多くの課題が残っています。

2. ロータリークラブへの期待

この伝統と新たな挑戦を継続するため、補助金や助成金について市役所と早期から協議を進めたところではありますが、政教分離を理由に申請は受理されませんでした。六月祭は、起源こそ神社の例祭ではあるものの、主たる目的は伝統文化の継承や郷土愛の醸成に重きを置いた青少年の健全な育成、空き家対策や若手起業家の支援も視野に入れた中心市街地の活性化であり財源も両神社とは一切の関わりがないことも説明しましたが、思うようにはいきませんでした。

今後この祭りを継続していく上で、財源は自立する必要があり、補助金や助成金に頼らない運営を目指し、委員会メンバーと頭をひねっていきたいと考えています。地域の中核を担う皆様には、この「六月祭」の取り組みが、伝統文化と次世代育成という奉仕の理想を具現化する活動であるとご理解いただき、ご指導・ご協力いただければ幸いです。

最後に、この六月祭に関わることにした一番の理由をお話したいと思います。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、私は令和5年2月にがん告知を受けました。多発性骨髄腫という血液のがんで完治しない病気です。告知からすぐに入院し、7月にはがん細胞を全部叩いて寛解、今年の4月に再発し、現在も週に1回の治療を続けておりますが、おかげさまで経過は良好です。

またいつ悪くなるかわからないこの病気をきっかけに、自分の命の使い方みたいなことを考えるようになりました。この地域で生まれて、この地域で育ち、結婚して子供を授かり、今後もこの地域で暮らしていく。何か自分にできる恩返しはないものか、次の世代に何か紡いであげられないものかと考えた結果がこの六月祭でした。

いろんな方とお話をすると中で「あの場所からお祭りがなくなるのは寂しい」「どうにか続けてほしい」「誰かがやってくれればいいんだけど」という声を多く聞きました。「じゃあその誰かになってみるか」と思ったのがこの始まりでした。

5年先、10年先の未来を思えば、いま種をまかないといけないのです。その種がやがて小さな芽を出し、次の世代が水をやり育てていく。そうやって地域は成長していくのではないかと思います。人口がどんどん少なくなっていく昨今、もはや「まちづくり」ではなく「まちおこし」の方法も視野に入れないといけないのかも知れません。

六月祭はたった1日の祭りでしかありませんが、この祭りを通して少しでも世の中が、この地域がよくなることを心から願っています。

そして、ここにいらっしゃる地域を思う皆様からのご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

○佐沼ロータリークラブ、親睦ゴルフコンペ

日 時 2025年10月28日(火)

集合 7:50

場 所 一ノ関カントリークラブ

参加者 15名

結果 優 勝 三浦孝次郎会員

準優勝 千葉隼人会員

3 位 布施孝尚会員

○2520地区第5分区親睦ゴルフコンペ

日 時 2025年11月9日(日) 7:20~

場 所 宮城カントリークラブ

参加者 石巻東RC 3名

石巻西RC 1名

石巻南RC 1名

若柳RC 2名

佐沼RC 8名

結果 優 勝 渡辺由理様(佐沼RC)

準優勝 中川尚仙様(石巻東RC)

3 位 菅野厚子様(若柳RC)



佐沼RC親睦ゴルフコンペ